

大学



たぬきのキャラクターが描かれたミニバスが、東京都多摩市のお年寄りの多い地域で、10月から3カ月間無料で試験運行している。多摩市と京王バス、住民の三者による「共働」運行だ。このバスの外装や、バス停のデザインにかかわったのが、東京都大（旧武蔵工業大）の小池星多情報デザイン研究室の学

東京都大 小池星多研究室

地域のミニバスをデザイン



たぬきの名前は「さいとうさん」。住民が作った「ミニバスを走らせる会」事務局長からイメージした。「たぬきのバス」と呼ばれたいという＝東京都多摩市

情報デザイン研究室の学生は20人。使う人の要望を実際に聞きながら、社会に必要なものを作ることを「ソーシャルデザイン」と呼んでいる。企業とも協力して、道具やロボットからサービスまで、幅広くデザインする。

生たち。「地域のニーズに応えるものをデザインしたい」とミニバスがある多摩市役所を訪れたのがきっかけだった。

4年の土肥真梨子さん(21)は「バス停ひとつ作るにも規制が多い中で、自分たちらしさをどう出せるか」を考えた。バス停に、住民が手書きした「ミニバス応援メッセージ」を張った

り、本格運行に必要な500人を目指し、いまの乗客人数を伝えたりして交流の場にした。

地区に全戸配布する「ミニバスにゆーす」もデザイン。字の見やすさや情報量などは、住民の声を取り入れた。4年の滝本桃子さん(22)は「地域の人と話し合うことが楽しいし、ために（平岡妙子）」